メルマガ５月（５５号）　＜連載＞　全国協議会がめざすもの

届くよみんなの声、クラブがクラブを育てるネットワーク！

－総合型地域スポーツクラブ全国協議会（ＳＣ全国ネットワーク）－

１．はじめに

2010 年３月５日ＳＣ全国ネットワークは、始めて１年間の経過報告をする総会を迎えました。ＳＣ全国ネットワークは何をしていくのか、そして如何にあるべきか、いつも自問自答しています。

１年目にして 38 の都道府県に総合型クラブ連絡協議会が発足し、toto に関する要望や提言、クラブの課題の声が上がってきています。中には採択されたものや新たな企画としてクラブ側へ提案できるなど、目に見える効果も表れてきています。

ネットワークの重要性は誰しもが認めるところであり、世界的な潮流でもある気がします。しかし、オールマイティーなネットワークが存在するものでしょうか。多種多様な全国の総合型クラブを一律視したり、一つの枠組みの中で定量化したりすることは、無理があるうえリスクがあると思われます。

欧州型をモデルに設立されたクラブは全国に 2,900 余。そこにはクリアランスのあるネットワーク化が求められるのではないかと思います。平たく言えばどこからでも声が上げやすく、集約されボトムアップされ、フィードバックされていく姿をイメージしています。

２．発展と定着のためのシナリオは描けるのか…クラブの義務と責任は

少子高齢化がますます進み人口が減る一方で、個人主義化の台頭は目に余る形で様々な難題を突き付けます。地域のスポーツクラブの現場では、不特定多数の住民のために知恵と汗を絞り、多様なプログラムを提供し続けています。地域の課題解決には、地域＋学校(行政)＋クラブが協働した地域力が絶対不可欠です。クラブは無限の可能性を秘めているものの万能薬にはなり得ない、理念があってもビジョンがないところには発展も定着もないでしょう。

クラブの究極の義務と責任は、地域の社会資本として永遠に存続することです。

ＳＣ全国ネットワークは、都道府県の連絡協議会と連携し、クラブ間の情報交換および交流の機会を設け、共通する課題の解消をみんなで探るとともに、社会的認知度向上のための広報活動を通じ、それぞれのクラブが自主自立した発展と定着のためのサポートをするものです。

３．バリアフリーの気配りはナチュラルな連携が生まれ提携がはじまる

聖人君子にはなり得ないという、当然全方位外交などできるはずもない、だけどクラブはサービス業。周囲への気配りは過ぎることはない、公平性と平等性を持った裏表のない気配りは、仲間を増やし、つながりができます。そのつながりは金や物かもしれないし、知恵や労力かもしれない、それが核となり増殖したものは強力なクラブのパワーとなるはずです。

ＳＣ全国ネットワークは、（財）日本体育協会はもちろん、文部科学省、日本スポーツ振興センターをはじめ各界の熱い期待を受けご指導をいただいています。また各方面のみなさんより、応援メッセージや叱責がたくさん届いています。そのことに感謝しながら肩肘を張ることなく、今やれること、やらなければならないこと、連携できること、できないことを、見極めながら、一歩一歩、全国の総合型クラブに有益な情報を提供していきたいと考えています。

小倉弐郎（総合型地域スポーツクラブ全国協議会幹事長）